

第 1 回奄美群島森林生態系保護地域設定委員会における主な意見

奄美大島と徳之島の国有林において森林生態系保護地域を設定することにより、両島の自然植生の保全をどこまでカバーできるか、きっちり詰めてほしい。

主要な植物群落が分布している区域は可能な限り国有林でカバーし、その保全を図るようにしてほしい。

森林生態系保護地域の設定に当たっては、高齢級の天然林のほか、自然林として成立するポテンシャルを持つ箇所などを含める姿勢が必要ではないか。

保護林の設定に当たっては、動物の生息環境を保全する観点から、天然林だけでなく、二次林や人工林についても含めることが望ましい。

徳之島の場合、標高 300m 位を境にして暖温帯と亜熱帯に分かれるなど、保護林の設定に当たっては、標高や地形に関する情報も参考にしてほしい。

マングースは昆虫から両生類までかなり広範囲な動物種を餌にしていることから、マングースの生息状況と森林の林況との関係を調べてほしい。

貴重な動物の生息状況を把握する上において、できたら生息密度に関する情報があつた方がいい。

金作原国有林は以前に比べて入り込み者が増えている、林床が乾燥し固有種をはじめとする動植物種が減ったように思うので、調査してほしい。

設定した保護林の目的を継続して実行するためには、しっかりした保全管理の方策を決める必要がある。

森林生態系保護地域については、継続的に希少種に関するモニタリング調査等を行ってほしい。

徳之島の南の方には、面的な広がりはないものの、貴重な植物群落が見られるので保護してほしい。

森林生態系保護地域の設定に当たっては、保護林制度を柔軟に運用し、国有林を最大限活用して奄美の生物多様性を保全してほしい。また、「緑の回廊」を活用し、国有林と民有林を一体的に保全できないか。

国有林が奄美で森林生態系保護地域の設定に取り組むこと自体、大きな前進だと思う。国有林をコア、周りの公有林をバッファードとするようなことは考えられないか。

森林生態系保護地域においては、人手を加えず自然の推移に委ねれば多様性を維持できる所は委ねるが、生態系や生物多様性が劣化していく要素を持つ地域の保全には適切な人為を積極的に加える、というのが全国的な近年のトレンドだと思う。溪流沿いを移動する動物のためには、コリドールの設定も必要と考える。